

## 5. 意思決定に向けた支援プロセス②

「意思決定支援」ガイドラインに基づく支援プロセス

# グループワーク⑤

## 「意思決定支援会議の実践」

## グループワーク⑤の進め方

---

- 1 動画視聴(約12分)
  - ・視聴後のディスカッションを意識して視聴する
- 2 グループ内でディスカッション(15分)
  - ① 会議のルール設定の理由と効果
  - ② アドボケイトによる意思決定支援とアドボケイト不在時の対応
  - ③ 意思決定支援上の工夫と効果
  - ④ 意思決定支援を継続する理由

# 意思決定支援会議の実践（約12分）

---



映像で学ぶ～高次脳機能障害・失語症のある青木さんのストーリー～

厚生労働科学研究費補助金

障害者の意思決定支援の効果に関する研究班 制作・著作 95

## シーン3 ディスカッション 意思決定支援会議の実践



① 会議の冒頭で「ルール」の設定が行われた理由とその効果について考えてみましょう。

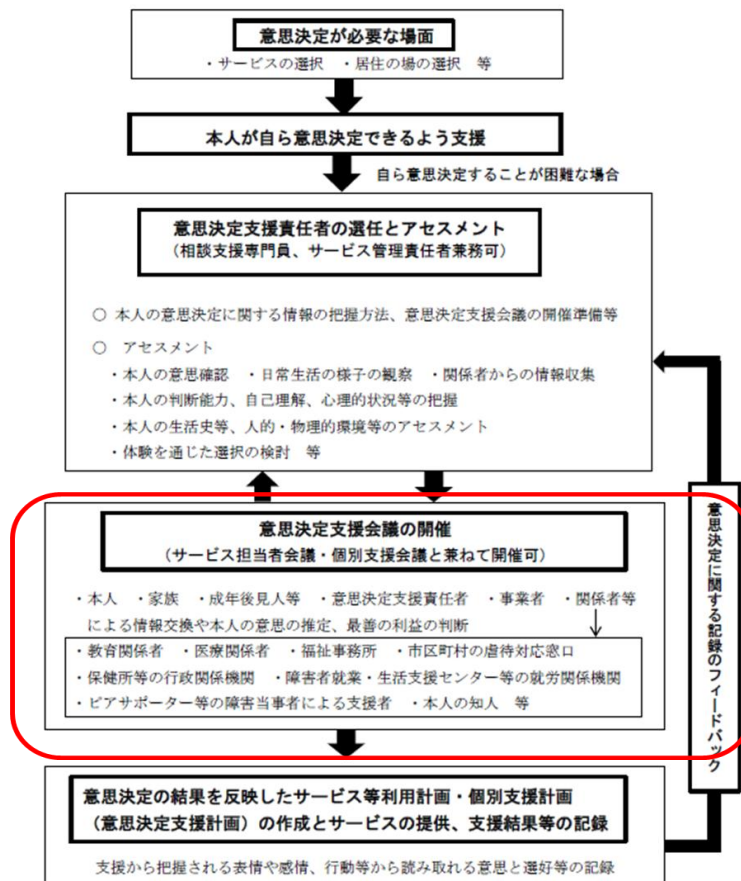
② 後藤さん(本人の隣に座っていた元ヘルパー)は青木さんの会議への実質的な参加を促すために、どのような意思決定支援をしていましたか？  
仮に後藤さんのような存在が周囲にいなかった場合は、どのように本人のアドボケート役を確保しますか？

③ その他の参加者は、どのような意思決定支援上の工夫をしていましたか？その効果は？

④ 青木さんが自宅に戻った後も意思決定支援を続けることになったのはなぜでしょうか？

# 障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドラインP11

(図1) 意思決定支援の流れ



事前準備  
(プレミーティング)



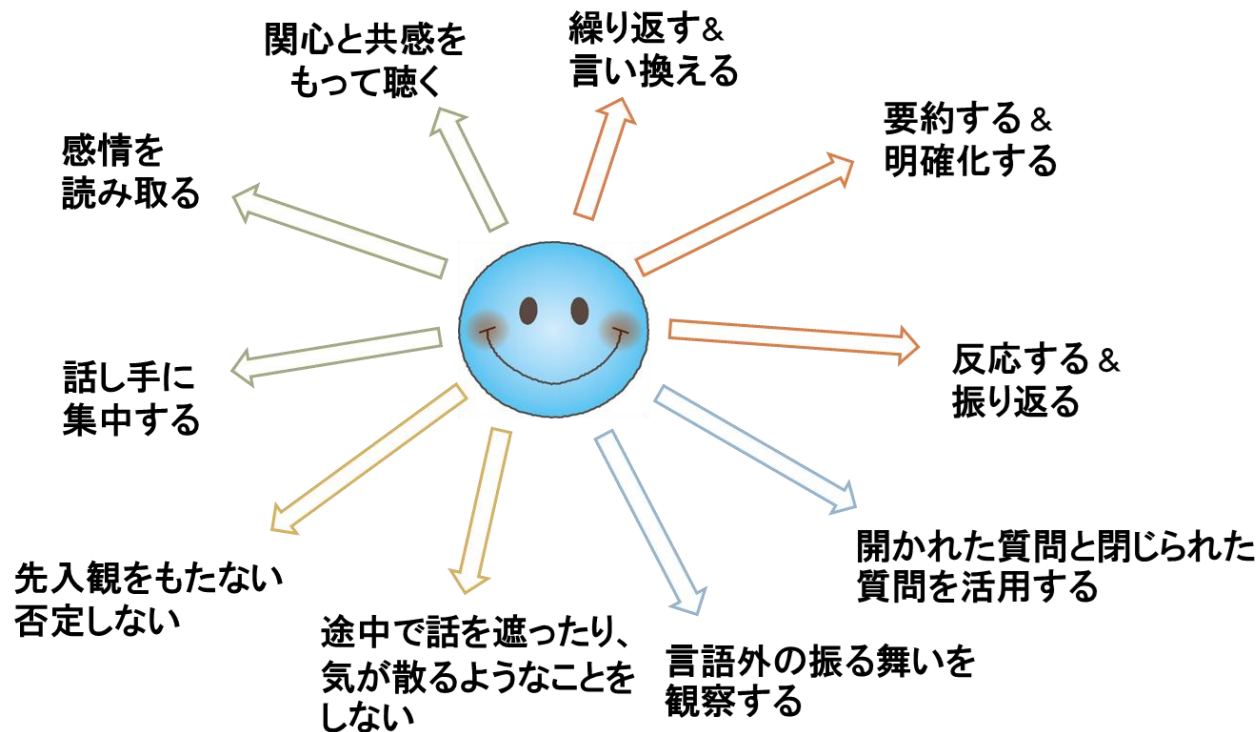
チームミーティング

- ①支援付き意思決定場面
- ②本人意思の推定・最善の解釈場面
- ③(主観的)最善の利益場面

# 基本姿勢 = 傾聴(Active Listening)

傾聴とは、**相互理解を促進**するための、相手に対する**聴き方と反応**の方法をいう。

by Conflict Research Consortium, University of Colorado, USA



# 青木さんの意思決定支援会議

2019.1.15

第1会議室

出席者: 青木さん、近松、福田、馬場、堂本、後藤

テーマ: 退院後の住まいについて

ルール: ① 青木さんが第1番

② 価値観をおしつけていい!!

1月8日 トーキングマップ実施「家の中の過ごし方」

○: のんびり、コヒー、読書、テレビ、車、洗車

×: 飲み会、ゲーム、音楽、ペット、料理 (パーティー)

時刻表

青木さんの希望

自宅で生活

青木さんにとって  
良いこと  
悪いこと

- ・のんびり自由に過ごす
- ・お気に入りの車がある  
(洗車が好き!)
- ・青木さんの思いに合う

課題

- ・1人での時間  
→ 支援者も青木さんも不安  
(以前、脱水症で倒れる)

対策

- ・日中訪問できる支援者追加
- ・いざという時の緊急連絡先用意

・試みに宿泊してみる

1月2日

他の選択肢もあるかも?

施設で生活

- ・見守り充実  
→ 何かあっても安心
- ・様々なイベントあり

皆と一緒に活動するのが苦手

- ・自由にやりたいこともある
- ・青木さんらしい

方向性

大きな問題はないが  
自宅生活への移行

但、本人意思、家族と  
定期的に確認





本人の示した意思は、それが他者を害する場合や、本人にとって見過ごすことのできない重大な影響(※)が生ずる場合でない限り、尊重される。

※「重大な影響」といえるかどうかは、

- ・本人が他に取り得る選択肢と比較して明らかに本人にとって不利益な選択肢といえるか
  - ・一旦発生してしまえば、回復困難なほど重大な影響を生ずるといえるか
  - ・その発生の(高い)可能性・・・(高度の)蓋然性があるか      ※蓋然性・・・「おそらくそうなるだろう」
- 等の観点から慎重に検討される必要がある。

プロセスを踏めばあらゆる本人の意思決定(及び意思決定支援)が許容される、というわけではありません。

例) 自宅での生活を続けることで本人が基本的な日常生活すら維持できない場合  
本人が現在有する財産の処分の結果、基本的な日常生活すら維持できないような場合